

第七次福井市総合計画審議会 専門部会 第1部会（第3回）

■日 時：平成27年12月3日（木）14:00～16:00

■場 所：福井市役所 第2別館2階 22（B）会議室

■出席者：別紙のとおり

■会議内容

1. 開会

事務局（山本総合政策室副課長）

それでは時間となりましたので、第1部会、3回目の専門部会を開催させていただきます。委員の皆様方には大変お忙しいところご出席いただきまして、ありがとうございます。今ほどもありましたように、町井副部長の方からは遅れるというご連絡がございました。桜井委員の方は連絡を頂いておりませんので、こちらにて連絡を取りたいと思います。

それでは早速ではございますけども、部会の方を始めたいと思います。進行につきましては下川部会長、よろしくお願いいたします。

2. 審議

基本目標1「みんなが快適に暮らすまち」について

【資料】・第七次福井市総合計画（案）

下川部会長

皆さん、こんにちは。お疲れさまでございます。

皆さんとこの第1部会をスタートしてからだいぶたつわけですが、間に調整会議や審議会なんかもありまして、私たちがこれまで積み上げてきたものを全体にどう対応させていくかということを踏まえながら、内容をまとめてまいりました。今回いよいよ第3回目、つまり最終の部会になりますが、今日は皆様のお手元にある3枚というのは、これまで皆さんと一緒に議論してきた内容を、事務局の方でだいぶ骨を折っていただいたんですが、資料を取りまとめていただいて今日皆様にお見せしているところです。

今日は、事務局の方でこれをご紹介していただきながら、私たちがその内容を確認して、これで最終的に第1部会として出せるかどうかをみんなで審議していきたいなと思っております。

それでは、事務局の方でこの資料を使って皆さんにご紹介をよろしくお願いいたします。

事務局（落合総合政策室主査）

総合政策室の落合と申します。今回お示しいたしました3枚の資料について、政策ごとに1つずつ説明させていただきたいと思います。座って説明させていただきます。

まず初めに皆さんから頂いた意見の反映箇所を説明させていただいて、その後にこちらから一つ一つ読み上げていきますので、また目と耳で間違いはないか細かいところなどをご確認いただければと思います。

まず資料の政策1です。全体の構成、レイアウトを今回少し変えている部分もあります

ので、最初にそちらの説明をさせていただきます。まず資料向かって右上の青いバーのところにあるのは、この政策が何を表すのかというのを端的に示すための言葉を追加しています。次に、資料の左上政策1の下の部分、これは政策のタイトルを示していきまして、その右側にあるのがその説明文という構成になっています。

次に資料の左側、現状、課題とあるわけですが、こちらの方は当初素案として出させてもらったときは現状と課題が1つになっていましたが、現状と課題をより明確にしようということで分けさせていただいています。課題の前に①、②という数字を書かせてもらっていますが、これは現状や課題からこういった施策が必要かという流れを示すような構成になっていきまして、課題の①が施策の①につながるというかたちでストーリー性を持たせています。

また、多くの委員さんから政策などの規模感がわかるようにというご意見を頂きましたので、課題の下に現状を示すデータ、グラフを表示させていただきます。施策の下の方にも、施策の代表的な取組みを表わす写真を掲載しています。あと、全体的に今後5年間の特徴的な事業や言葉なども入れ込みながら、できる限り具体性を表現させていただくために、課題と施策は箇条書きに変更しているところでございます。これが全体の構成、レイアウトの説明です。

次に政策1の、皆様から頂いた過去2回の部会のご意見がどこに反映されているのかというのを説明させていただきます。まず大きな変更点といたしましては、皆様から頂いた中心市街地と地域、これを分けています。地域を単独で持つというかたちに変わっているところだと思います。

審議の中心は、交通と空き家、地域資源、こういったものになるかなと思いますが、こちらにつきましては施策①の1つ目のポツに、まちなかの資源でございます中央公園や足羽川、足羽山、そういったものをイメージできるような施策ということで書かせていただいています。あともう1つ、公共施設や公共スペースなどの低・未利用地の活用につきましては、これも施策①の4つ目のポツ、こちらの方に反映させていただいています。残り2つの交通と空き家につきましては、主に次の政策2の方で反映させていただいています。

続きまして、挿入させてもらっている資料ですが、課題の下にグラフが2つありまして、左側のグラフが平成17年度から26年度までの中心市街地における歩行者・自転車通行量の推移を表しています。右側のグラフは平成18年度から26年度で、まちなかにおける空き店舗率の推移と、まちなかへ店などを出していただいた際に、福井市の方から支援し開業した件数の推移でございます。

最後に施策の下、こちらにも2枚写真があります。来年オープンします交流拠点のハピリンと、県都デザイン戦略の一つである中央公園の写真をお示しして、できるだけ市民目線といいますか、市民の方にもわかりやすいようなかたちの構成にさせていただきました。

それでは、続きましてこちらの資料を、ちょっと時間が掛かるかもしれませんが一つ一つ読み上げますので、その後ご意見を頂きたいと思います。それではまず政策1、中心市街地に関する施策。「まちなかの充実した都市機能により、多様な人が集まるまちをつくる」。「まちなかに集積する充実した都市機能を活かし、県都の顔にふさわしい魅力と風格あるまちづくりを進めます」。「地域活性化の起爆剤となる北陸新幹線の早期開業に取り組むとともに、県都の玄関口となる福井駅周辺の整備促進に取り組めます」。

現状です。「平成27年3月の北陸新幹線金沢開業により、金沢や富山では民間の企業活動が活発化し、観光誘客も増加していることから、福井開業までの間に地域間格差の広がりが懸念されています。また、平成30年には福井国体が開催され、県外から多くの方が

福井を訪れることから、玄関口となる県都の魅力を高める必要があります」。「まちなかには、にぎわい交流の核としてオープンした」、こちらはまだオープンしていませんが、計画期間中はすでにオープンしているということでオープンしたとさせていただきます、

「ハピリンやハピテラス等、人が集まる交流拠点を活かすため、市民や企業、各種団体との連携を図り、着実な活性化を進めることが必要です」。「今後、新幹線福井開業に合わせ、あらたな視点での公共スペースの利活用など、まちなかのにぎわいと人の交流を創出する好機が訪れています」。

課題です。①、「まちなか観光の回遊性と魅力の向上、県都デザイン戦略に基づく基盤整備」。②、「まちなかの居住人口を増加させることや、空地・空き店舗・空きオフィスの利活用」。③、「経済の活性化や、観光誘客の起爆剤となる北陸新幹線の早期開業と並行在来線の健全経営」。

施策です。①、「まちなかの資源を活かした魅力と風格ある県都の顔をつくる」。1つ目、「歴史や文化、自然等本市の豊かな資源を活かし、市民が利用しやすい空間を形成します」。2つ目、「民間建物のデザイン向上と、質の高い都市デザインに支えられた一貫性のある公共空間の創出により、市民や観光者にとって魅力的な基盤整備を推進します」。3つ目、「福井駅周辺の整備を仕上げていくとともに、良好な都市機能を形成します」。4つ目、「土地の共同化や高度利用を促進し、商業・業務・文化・福祉等の複合的な都市機能」、ちょっとこの後を修正しまして、「集積を誘導します」。

②、「にぎわいのある空間を創出しまちなかの活性化を図る」。1つ目、「ハピリンを拠点としたにぎわいの創出や、商店街等と連携したイベント開催を支援します」。2つ目、「まちなかのリノベーションの動きを促進するとともに、まちなかの出店、開業、創業を支援します」。3つ目、「都心居住を誘導するためまちなか居住環境を整備し、にぎわいの創出を図ります」。4つ目、「公共交通や自転車等様々な手段によるアクセス性を高めるとともに、回遊性の向上を図ります」。

③、「北陸新幹線の整備を進める」。1つ目、「北陸新幹線の早期開業を促進するとともに、最大の開業効果が得られるよう利活用を検討します」。2つ目、「並行在来線の開業準備を進めます」。以上が政策1となります。

皆さんご審議いただきますよう、よろしくお願いいたします。

下川部会長

ありがとうございました。今全文朗読していただきましたが、これを受けて皆さんからご意見をお伺いしたいなと思います。議事録の作成上、お名前の後にご発言の方をよろしくお願いいたします。いかがでしょうか。

今回第3回目の最後の部会ということで、皆さんにご確認をさせていただいているんですが、当然これはまずいぞということがあればおっしゃっていただければ、また事務局と相談しながら反映させていける部分はしていきたいなと思っておりますので、もしよろしかったら積極的なご発言をよろしくお願いいたします。よろしいでしょうか。

私からちょっと1つ。この内容というのは、当然皆様もご承知のように、第六次総合計画でも中心市街地に関する政策と施策が盛り込まれておりました。その政策、施策というものを私たちの中でもう一度見直して、中心市街地とそれ以外の部分をしっかり分けていきしょうという話になりました。そういう意味では第六次総合計画の連続性をしっかりと担保するために、この中心市街地に関する政策については、基本は第六次総合計画を踏襲するというものになっていると思います。

ただ一方、第六次総合計画が作られたときと現在とでは少し社会的な変化も見られます

し、また今後の事も考えていきますと、今後というのは人口減少だと思うんですが、福井市の財政をなるべく圧迫しないような内容を少し盛り込んでおくといいだろうということで、特に①のポツの4番目、「土地の共同化や高度利用を促進し、商業・業務・文化・福祉等の複合的な都市機能を集積に向けて誘導します」という部分が、新たに付け加えられることになりました。

これについては、2回目の部会のときに皆さんにコンパクトシティといいますか、まちをちょっと縮小していくという話を私の方からさせていただいたんですが、今後中心部の居住人口を上げていくためには居住環境をしっかりと整えていかないとはいけません。ただ、皆さんもお気付きのように、今中心部が住みやすい場所であるかどうかというところ、おそらく市民のほとんどの人が、やっぱりまだ住むんだったら周辺部の家に住んだ方がいいよねという人が大多数じゃないのかなと思います。

これから中心部の居住人口を増やしていくためには、周辺部に増して中心部が住みやすく魅力的に映るような場所に変貌していかなくてはならないんですが、それをしようとするとそれにまつわる必要な都市機能がある程度しっかり集めてこなければ、なかなか魅力的な住める場所になってこないだろうと思います。その魅力的な都市機能というとさまざまなものがありますから、こういったことを行政なんかにはしっかりと考えていただきながら、居住しやすい場所に今後変更していただくために、この政策1の方に盛り込んでおきたいという思いがあってここに挙げさせていただいております。

それ以外につきましては、ほぼ第六次総合計画の踏襲でありますし、また下に写真があるようにハピリンとかハピテラス、中央公園など、都市が第六次総合計画以来大きく変化している部分もしっかり受け止めていますので、私としてはこの内容でよろしいんじゃないのかなと思っています。

どうですか皆さん、もしあればおしゃってください。

栗原委員

小さいところから申し上げますけど。施策①の「観光者」という言葉はちょっと聞きなれないなと思って、観光客ではだめなのかなとちらっと思いましたけど。それと、「土地の共同化」という意味がぴんと来ないですね。一般市民が読んだときに何を指すのかちょっとわからないんですね。

それと左側の図ですけど、これが現実なんでしょうけども、ずっと歩行者、自転車通行量は減っているわけですね。平成27年の数字が出ていませんが、これは27年を出すことが可能なら出していただきたいと思うんですけども。27年度の数字がどうなっているのかがちょっと気になる場所なんですけど、さらに歩行者、自転車通行量とは27年度は減っていつているのか。

それと、その隣の空き店舗とかのグラフですけども。私が新聞なんかで読んでも限りでは、26年度や27年度は空き店舗の数は少し上昇から下降へ転じたふうに受け取っていたのでちょっと意外ですけども、これはまだ依然として増える傾向にあるんでしょうか。

事務局（山田総合政策室長）

このデータの左の歩行者・自転車通行量は平成28年まで入ると思いますので、総合計画のときには28年まで入れられると思います。西口ができた後の通行量も入ると思いますので、そこまでのデータになると思います。わかる範囲で今は26年までしか書いていません。空き店舗率は確実に減っています。27年で減っていると思いますので数字も入りたいと思っています。

事務局（三谷都市戦略部次長）

27年はずでに調査済みです。正確な数字を今日持って来てないんですが、傾向としては大きく回復している状況ではなくて、依然としてまだ工事中とか駅前もそういう状況があってまだ増えてはいない、26年と同等あるいは若干下がっているような状況です。28年になると、西口がオープンしますので画期的に変わるかもしれません。

事務局（山田総合政策室長）

28年を入れたいなと思います。

下川部会長

私もそう思います。西口のビルができればこの辺の数字は相当変わってくるだろうなと思います。ぜひ入れていただきたいと思います。

「観光者」とか「共同化」については文言の話なので、観光客の方がいいでしょうし、共同化については少しわかりやすい表現に変更してもいいかなと思います。

事務局（落合総合政策室主査）

先ほど説明させていただきました資料ですが、右側のまちなかの開業支援件数と空き店舗率の推移ですが、これはグラフの下の方に書いています赤色のところが店舗率で、青色が支援件数なんですけども、申し訳ございません、これは逆で、赤色が支援した件数、青色の折れ線グラフが空き店舗率ですので、空き店舗率は減っていて開業支援件数が増えているというような状況が読み取れるかなと思います。すみません、大変失礼いたしました。

下川部会長

その他、ございませんでしょうか。

堀川委員

今グラフのお話が出たので先にグラフの話を申し上げますけど、今の逆だったというやつは本当に大きな間違いだと思うので、修正は速やかにしていただきたいと思います。また、両方のグラフに言えることなんですけど、グラフの捉え方を、もうちょっと細かなデータ収集をするべきです。これでこういうデータですなんて出してくること自体が、僕はすごく残念です。

なぜかという、右側のグラフからいうと、1階の路面店がどれだけ詰まって空き店舗があるか、2階、3階もしくは地下の店舗はどれくらい空いているのか、そういったところで見ると1階の路面店は格段に減っていますよね。そういうところにおいてなおさら期待感が生れたりとか、それからやる気になったりとかするわけで、そういうふうデータ分けすると、よっしゃ、福井、よくなってきたぞってみんなに思ってもらえますよ。そういう部分が欠けています。

左手の歩行量・自転車通行量調査ですけど、これについては僕が議員になってからここ十数年ずっと言ってますけど、何でこの2つしか調べないんですか。議会の一般質問で言ってますけど、コンビニに行って皆さんがお買い物すると、年齢がどの世代の人か、主婦とか、学生とか、お年寄りとかそういったデータを、料金を頂くときにレジに打ち込んでいるんですね。それでもって店舗が商品構成をするんです。ですから、そのまちに合ったコンビニが地域一番店になっていくわけです。

駅前のこのまちも同じことが言えて、この中心市街地全体がどういうお客様の構成になっているかによって商品構成も変わるわけで、そのデータを出せばそれに伴ってお客様が見えるってことです。お年寄りがいっぱい駅前にはいるとか、若い子がいっぱいいるとか、

洋服屋さんでも食べ物屋さんでもその世代層によってそんなターゲットがいるなら、それじゃあ、駅前に行こうかとなるんじゃないですか。まったくそんなことを考えずに、ただ見えているところだけのデータを出しても何の役にも立たないと僕は思いますよ。それを前から言っているのに、何で改善しないのか僕はわからない。

参考までに、まちづくり福井がこの通行量調査していますよね。するたびに、カチャカチャッとやっているアルバイトの学生さんなり主婦の方なりに僕は聞いているんです。このデータの収集はもういっぱい、いっぱいかって。これに年齢別とか見た目の職業とか、そういったものをデータに収集するととっても手間できないかと聞いたりするんですけど、「できない」と言った人は今まで1人もいませんよ。何でしないんですか。それがわからない。駅前のことを全然知ろうとしていないですよ。それでこうやってこういう計画を作って、よくなるわけがない。

続けて申し上げると、ここに「にぎわい交流の核としてオープンしたハピリンやハピテラス等、人が集まる交流拠点を活かすため、市民や各種団体と連携を図る」と書いてあります。これ、市民や各種団体と連携を図って、市が主体となって市の行事としてやるのであればできるでしょう。しかし市民の中にも、当然営利目的じゃなくて自分たちの発表の場として屋根付き広場を使いたい、ハピテラスを使いたい、それからお年寄りも「私たちがいつもこういうふうに行っていることを、いっぺんみんなに見てほしい」、そういう方々、各種団体がいっぱいいるんです。

そういう方々のお声を聞いています。その人たちが何を言っているかという、「土日とかに一面使って、15万円とか20万円のお金どうやってつくるの、私らが」。「私らがやったら、たくさんのお客さんと呼んでくる自信がある。でも、とてもハピテラスではできませんわ」と言うんです。

もう確かに募集は始まっているんです。受け付けをしているのがまちづくり会社ですから、まちづくり会社に聞きました。これ、減免はないのか。「減免はありません」。じゃあ、どうするの。営利目的じゃなくて自分たちの発表の場としてたくさんの人を呼べる人たちは使えないのかと言ったら、「使えません」。せめて何か減免できないのか。「できません」。でも、今後いろいろ議論して変更する可能性はあるかもしれません」と言うんですよ。でももう募集は始まっているんですよ。意味がわからないですね。

そんな中でにぎわいつくろうって、どうやってつくるんですか。僕はそこが今回の1丁目1番地です。西口再開発ビルが目玉中の目玉で、その中でもハピテラスが、たくさんの方々においでいただいて大きなにぎわいをつくる核になると思っています。でもそれは1年中はなかなか難しいです。雨風雪もしのげますから、全天候性ですけれども、でも端境期はもちろん1年の中にあります。端境期にもそういった方々にご協力いただいて稼働率を上げようとしている中で、そんなお金を払ってやれる人たちがいるとは僕は思えないですよ。端境期でも値段は一緒と言っていました。

その価格を決めるのも、どうしてそういう決め方をしているのか。皆さんがそれを認めたのか。議会にはその金額の上程はありませんでしたので、どうしてそういう構成になったのかわからない。私がもしその担当であれば、営利目的の方たちには出来高払いで、大きな利益を生じた場合にはそのうちの何パーセント。失敗した人といいますか利益が生じなかった人にはそれなりに、集客ができなかったんだから、ペナルティーではありませんが次回はお手つきで1回休みとかね。ボランティアの人たちには無料で貸すとか。そういうような臨機応変な使い方をしていただきたいと思います。

事務局（三谷都市戦略部次長）

そのハピテラスの使用料の話は、先進事例の他の広場とか他府県のところを調べてそういったかたちにはなっています。それをいかに市民の人にも使ってもらえるかという、まさしく委員のおっしゃるようなことです。うちも完全に借り切ったイベントとしてするときの使用料、あと市民の方が自由に使ってもらい、活用してもらって初めて効果が出るので、実際の運用面はさらに実際の来年のオープンまでに詰めて、できるだけ使えるようなことをまたご意見を頂きながら考えたい。

堀川委員

今の時点でそれが決まっていないんですよ。決まってないからそういう人たちが。

事務局（三谷都市戦略部次長）

ですから、使用料としては一応の決めごととして今つくらないといけないので、使用料としては幾らかということをつくってございますが、運用面で弾力的に、貸し切りじゃなくてフリーでいつでもそこでやっていいですよという運用するとか、いろいろなやり方あると思いますので。市民がちょっと発表するのに何万円も払ってまでするのかという議論はあると思いますので、さらにいろいろ研究していきたいと思います。

堀川委員

そういうふうに思ってしまった人たちがいるのです。興味を持っていて、私たちがという思いがあるので。

事務局（三谷都市戦略部次長）

先行予約の分については今、予約はそれで入れてもらっていますので。

堀川委員

ですからそういった人たちにもちゃんと周知徹底できるように、早めに年内にも公にしてください。以上です。堀川でした。

下川部会長

ありがとうございます。

ただ、グラフのところはやっぱり僕も気にはなっていて。何かというと、何の目的でデータを出すのかというのは少し考察を加えた方がいいかなと思います。その考察の加え方は堀川さんのおっしゃったのも1つだし。つまり希望を与えるものを載せるといいという見方もありますし、一方では本当にこの現状と課題をしっかりと認識できるような、そういうデータをきちんと載せるというやり方もあると思います。この辺は少し、グラフなので装飾ではあるんですが、生きたデータになってくるので、この辺は少しもう一度考える必要があるかなと思いました。

総合計画というと大きな話なので、議論がミニマムな話になってしまうとちょっとおかしい話にもなるかなと思うんですが、ただ堀川さんが今おっしゃったことはいい具体例の話です。少し私の方で補足をさせていただきますと、ハピテラスの使用料について細かい部分について関与はしておりませんが、ただ使用料を取るうんぬんを決めたのは私でありまして、確かそうだったと思っています。堀川さんも入ってくださっていたんじゃないのかなと思うんですが。

堀川委員

使用料を取ることは賛成しましたよ。

下川部会長

あれはグランドプラザか、富山の。

事務局（三谷都市戦略部次長）

富山ですね。それを研究している。

下川部会長

あれを参照させていただいたところがあるんですが、金額はちょっと記憶はしていないんですけど。

今の堀川さんのお話というのはやはり重要で、やりたいと思っている人たちがやれるということをどうこれからマネジメントしていけるかというのは、おそらくまちづくり福井が指定管理なので考えていってほしい部分ではあるんですが、福井市としてもまちづくり福井と協働して、そこら辺をうまく取りまとめていってくださるといいだろうなと思います。

しかも、早く情報を出してあげないと、せっかくオープンしたのはいいけれども予約ががらがらでというのもまた問題ですし、入りたいけど入れないぐらいがちょうどいいんじゃないのかなと、こういう施設のオープニングとしては。よく聞く話では、2年ぐらいはもういっぱい入れないんだというのが施設の人気度を示す指標になるともいわれているので。そういうものもイメージになりますので、できるだけ予約がいっぱいになるような取組みを、まちづくり会社と一緒に考えていっていただけるとありがたいなと思います。

そういう実績というか実があるからこそ総合計画がまた生きてくるのかなとも思いますので、そういう意味で堀川さんのおっしゃっていることは、なるほどまったくそのとおりでなと思いました。この点、また事務局の方でよろしく願いいたします。

下川部会長

ありがとうございます。

それでは、次の政策2の方に移りたいと思います。落合さん、よろしく願いいたします。

事務局（落合総合政策室主査）

それでは引き続き、まずはこの政策2について皆さんからご意見を頂いたものがどこへ反映されているかというご説明から行います。まずは議論の中心でございます地域資源と空き家に関する取組みは、施策①のところに、交通に関する取組みは施策②に反映させていただいています。特に施策①の1つ目のポツ、「地域拠点機能など基盤整備」という中に、皆さんから頂いたさまざまなご意見、地域にございます空き施設などの有効活用等をイメージさせていただきました。

具体的に申し上げますと、皆さんのご意見で高齢者や子どもが気軽に集まれるような福祉的な施設としての活用、あとは店舗や行政サービス、医療施設などの日常生活に必要な機能に、主要なバスや鉄道でアクセスできるような身近な空間の移動、その他古民家や廃校などを活用して観光や商業施設としての活用なども、この地域拠点機能というところに集約させていただいております。

続きまして、今回出させていただいた資料の説明ですが、左側のグラフが交通に関する施策の現状ということで、平成16年度から26年までの公共交通乗車人員の推移を示しています。右側につきましては、空き家を利活用した移住・定住策の一環で、空き家情報バ

ンク登録数と成約件数の推移を示しております。

施策の写真として下の方に2つ載せさせていただいていますが、左側は施策③「快適な市民の憩いの場をつくる」の1例として渚中央公園の取組み、もう1つ右側は施策①の4つ目のポツ、「地域と都市住民の交流活動促進」の例として田植え体験を示しております。何度も修正で申し訳ないんですが、ここの渚中央公園の正式な名称で「渚」は平仮名になるということです、こちらの方も修正をお願いします。

そうしましたら先ほどと同じように音読いたしますので、また後ほどご意見を頂ければと思います。政策2、「地域に関する政策」。「地域の特色を活かし、自立的に発展できるまちをつくる」。「地域の特色を活かし、快適で個性豊かなまちづくりを進め、誰もが安心して暮らせる地域をつくります」。「地域の状況に応じた誰もが利用しやすい交通サービスを提供し、自立可能なまちづくりを進めます」。

現状、「本市には、さまざまな特徴、特色をもった地域があり、それぞれのもつ豊かな資源を活かし地域の活力を維持していくことが必要です。しかし、地域の特性に応じた交通サービスや、生活に必要な基盤整備は十分とは言えない状況です。個人の価値観やライフスタイルが多様化する中、心の豊かさや、やすらぎを感じられる自然と共生する暮らしを求める人が増えています。持続可能なまちづくりを進めるため、住み慣れた地域で快適に過ごせる環境を整える必要があります」。

課題①、「地域に活力をもたらす地域資源や施設の有効活用」。②、「快適な地域生活を維持する公共交通ネットワークの構築」。③、「身近に自然を感じられる河川の水辺環境の保全と、住民やボランティアとの協働による公園の維持管理」。

施策①、「地域の特色と資源を活かした個性豊かな地域をつくる」。1つ目ポツ、「住み慣れた地域で生涯充実した生活がおくれるよう、地域拠点機能など基盤整備を進めます」。2つ目、「地域の特性にあった景観を形成します」。3つ目、「空き家を利活用して移住・定住を促進します」。4つ目、「地域ぐるみの取組みや都市住民との交流活動を促進し、里地・里山・里海の活性化を図ります」。

施策②、「地域の生活を支える利便性の高い交通システムを構築する」。1つ目、「地域それぞれの生活圏にあった交通システムを構築します」。2つ目、「公共交通相互の乗り継ぎや利用しやすいダイヤ編成等、まちなかと地域を結節する交通を円滑にします」。

施策③、「快適な市民の憩いの場をつくる」。1つ目、「良好な河川環境を保全し、憩いの場を創出します」。2つ目、「快適な公園の整備・維持管理を進めます」。

以上です。よろしくお願いいたします。

下川部会長

ありがとうございます。私たちの部会というのは、全体の比重でいうとこの政策2について相当時間を割いております。つまりこれは私たちの思いというか考えが詰まったものであります。ですので皆さん、もう一度しっかり確認をしていただいてご発言をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

もしよかったら私から少し。今回この政策2の中で地域というか、私の言葉で言うと中山間地域とか、そういう周辺でこれから暮らしを続けていくことが難しくなってくるような地域を指すことが多かったんですが、そういったところは今まで第六次の中で眠っていたものをちょっと引っ張り上げさせていただいて、政策課題とさせていただいたわけですが、その大きな視点というと、一言で言うと生活を維持できるかどうかというところだったかと思っていますし、今もそう思っています。

この中山間地域の人々には、これから中心部を利用してもらいながら生活を豊かに維持

していただく必要があります、そのためには中山間地域は中山間地域で地域拠点というもの、生活拠点というものを築いていかなくてはいけないんですが、その中でキーワードとして「維持」を全面に押し出してみてはどうかと思っています。

今回大きなタイトルとして「地域の特色を活かし、自立的に発展できるまちをつくる」という書き方をされていて、悪くはないなと思っているんですが、例えば「維持できる」という言葉に置き換えると、ちょっとニュアンスとしてどうなんですかね。ちょっと強すぎるんですか、その辺は。「発展」という言葉がもはや机上の空論のように聞こえて、たまらないなという気がちょっとしているわけなんですけれども。

皆さんはどうですか、その辺、感覚的なところなんですが。おそらく発展の方がきれいだし、未来志向で総合計画としてはふさわしいんだろうと思うんですかね。ただ、今の現状を市民の方が知らないかという、知っていらっしゃる方もたくさんおられますし、そうしたときに発展という言葉がちょっと浮いてしまうのではないのか、ちょっとその辺を心配しているわけなんですけれども。この辺はどうですかね。

町井副部長

これからの中山間地域の発展というのはなかなか、現実としてちょっと難しいですよ。だんだん高齢化して人が少なくなっていくのに、その中で発展というと、よほど人を集めないと「発展」という言葉と相反するような気がする、その辺はどうかなという気はします。

下川部長

「発展」という言葉の持つイメージというのは、おそらくみんな共通はしていると思うんですけど。

栗原さん、こちら辺はどう思われます、「発展」という言葉なんですが。あまり気にならないですかね。

栗原委員

私はちょっと全体的に意味がよくわからない。この「自立的に発展できるまちをつくる」です。この言い方と、説明で使われているその右側3行目、「自立可能なまちづくりを進めます」で使われている「自立」の言葉の使い方が、2つ同じ自立と使っているんですけど、違う使われ方をしているんじゃないかという気がしないでもないんですけど。要するに「自立的に発展できるまち」というのは、この「自立」というのは何が自立するのか。住民が自立するのか、何が自立するんですか。

下川部長

ありがとうございます。例えば、これまでは行政の支援で地域を維持していくということがほとんどだったと思います。交通に関しても。それを自分たちの力で維持できるというのは、やっぱりそこに住んでいらっしゃる方々の考え方もそうですが、本当に生活を豊かにしていくという、そういう姿勢が問われてくると思うんですね。これは福井だけでなく、日本全国の中山間地域はそうなんですけどね。

そうしたときに、感覚としてはやっぱり市民の生活を維持させるために、そこはたぶんセーフティーネットだと思うので、行政の立場としては維持だと思うんですが、そこで生活をされている方々が自立するというのは、その維持の上に成り立つことだと僕は思っているんですね。発展するかどうかというのは。

僕としては自立というのは確かに重要な言葉なんですけど、栗原さんが今違和感がある

とおっしゃっている意味も何となくわかっていて、その自立できるようにというのは、たぶん維持してあげることだと思うんですが、自立と維持というのはたぶん同等の言葉に近いのかなと思っています。自立するかどうかというのは住民次第なんだろうと思っています。

総合計画の作り方としては、おそらく自立を誘導するしかもう方法はないんだろうと思います。自立を誘導するんだったら、その誘導するのは当然生活を維持できる基盤がないと自立を誘導できない、もうそういう時代になっているんです。ですから順番からすれば、自立をしてもらうためにはやはり市としては生活を維持してもらうという立場に立った方が、たぶん行政の立場が明確になるんじゃないかと思っているんですが。

大森さん、言葉はちょっと難しいんですが、自立的に発展、地元の人たちが自分たちで生活を豊かにしていくということなんですが、その辺のことで何かお気付きになられていることはありますか。例として何かあったら。

大森委員

皆さんがおっしゃるとおり、今中山間地域の状況といいますとどうしてもお年寄りがどんどん増えてきていますので、その中で皆さん、自立してやっていきましようかという、なかなか難しい問題だと思うんですね。若い人と同居していてもなかなか、最近の家の状況を見ますと別々の考えだし、別々の行動もされていますので、そこでお年寄りと一緒にやっていくのは、うちのところを見ているとちょっと難しいような気がしますね。

ただ、お年寄りはこの住み慣れたところで、現状のままで生涯を終えたいという方がほとんどですからね。新しいことをやろうかというのは、見えていますとないような気がしますね。

下川部会長

おそらく、自立してもらうのは大事ですし、発展していただきたいところではあるんですが、生活の維持と考えると地域拠点をつくって行政サービスを、生活サービスをある程度集中させると生活は維持できるわけですから、そちらの方がひょっとしたら大事なのかなとも思います。

堀川さん、この辺はどうですかね。

堀川委員

安心した生活ができること自体がもういまや発展かなと思います。発展という言葉で捉えられるんじゃないかと思う。やっぱり会社員であれば安定してお給料を頂ける、お年寄りであれば健康で年金もちゃんと頂けるというような社会的な仕組みを福井市がしっかり確立できれば、それはある意味どこよりも発展かなと思うんですけど。

下川部会長

なるほどね。維持という言葉を使わないといけないかというとそうではなく、そういう意味が含まれているのであれば私は十分だと思っていまして。堀川さんがおっしゃるには発展自体にも、そういうものが含まれている。それがないと発展がないということですね。

堀川委員

はい、そうです。

栗原委員

よろしいですか。非常に幼稚な質問で恐縮なんですけど、この右上の3行目の文章「地域の状況に応じた誰もが利用しやすい交通サービスを提供し、自立可能なまちづくりを進めます」ですが、この自立可能なまちづくりは、交通サービスを提供すればできるという考え方なんですか。そうではないんですか。

さっき部会長が言われたのは、私の受け取り方は今自治体の財政がどこも大変厳しい面があります。だから住民は何でもかんでも行政サービスを自治体に求めるのではなくて、必要最小限の支援は自治体からしていただくにしても、住民ができることは住民が創意工夫でみんなが協力して、そういった地域の課題を解決しながらいいまちづくりをしていくという意味なのかなと思っていたんですけど。

下川部会長

そうです。

栗原委員

例えば、私なんかも自分の住んでいるところを見ていて思うのは、道路があつて街路樹があります、その街路樹のところに少し花を植えられるスペースがありますね。

下川部会長

美化活動みたいな。

栗原委員

景観をよくするための。市がしてくださっているんだと思うんですけど、そこにいろいろな植栽をしたり花を植えたりするんですけど、結局夏場に水が足りなくて枯れたり、草花もだめになったり、また植えたり。あれは行政では無理だと思うんですね。だからその地域の景観をよくするためには、住民がボランティアでそういう管理をしていかないとだめだろうと思うんです。そういうことを積極的にするような社会に変えていかないと、いつまでたっても税金のむだ遣いになってしまう。

下川部会長

そうですね。今回難しいのが、行政ができることと住民が主体的に行うことの間に線を引きにくいところがあるのは確かにありますよね。「地域の状況に応じた誰もが利用しやすい交通サービスを提供し」というのは、誰が提供するかというと、これはもう書き方からすれば行政が提供すると受け取られるわけですが、そうすると、どこまでそれができるのかというと、栗原さんがさっきおっしゃった最低限必要なものをきちんとそろえてあげるといえるのは、そこで生活をして維持してもらうための基盤になるわけで、それはこれからもずっと必要ですよ。そういう基盤があるからこそ、自立して生活をしていけるようになる。

ただ、その自立可能であるかどうかというのは、まさしく私たちができることというのは自立の土台をつくってあげることであって、自立しなさいというのは変な意味大きなお世話であって、せめて自立していけるように誘導していくことが関の山なんだろうと思います。ただ、そこで生活を続けていただくためには、交通サービスを含めた公共サービスというものは絶対に最低限必要であって、それを今回の総合計画でしっかりとくみ取ってもらえるような文言になっているかどうかというのは大事だなと思います。

僕もちょっと言い回しが難しいとは思いますが。行政ができること、住民が主体的にやることというものを、なかなかぶつくと分けにくい部分が当然ここは出てきますね。将

来に向かって用意する、準備するものなので、できるだけ懷を大きくしたいというのが、特に政策2では出ているわけですが、その他ご意見は。

櫻井さん、今政策2をやっています。政策2、わかりますか。

櫻井委員

「地域の特徴を活かし」という、ここですね。

下川部会長

そうです。私たちの部会では特にこの政策2にかけた時間が多くて、ここの内容を見ていただいてご意見を頂いているんですが、櫻井さんのお立場から見ていただいて、ちょっと抜けているとか、あるいは言い回しはこうした方がいいんじゃないというものがあるんじゃないですか、また教えてください。

こちらのデータの方はどうですかね。公共交通乗車人員の推移ということで、福井鉄道、えちぜん鉄道、バス、これが平成16年から26年まで載っているわけですが、これはおそらく平成28年まで出ることになるでしょう。もう1つは空き家情報バンクが載っているんですけど、この辺のデータがふさわしいと思われるかどうかなんですけど、いかがでしょうか。

栗原委員

バスの乗車人員だけがずっと減少しているんですけども、これは何か原因というのはわかりますか。

事務局（三谷都市戦略部次長）

こちらの鉄道も行政の方で支援して、えち鉄は三セクですし、福鉄も沿線3市の行政が全面的に支援してやっています、その中で鉄道はいろいろな駅舎の改良やパーク・アンド・ライドなど、そういった支援をして鉄道は何とか伸びています。地方都市でこれだけ地方鉄道が伸びているのはなかなか珍しくて、全国的にも注目されている。

バスの方は、京福さんと福鉄バスさんと市内で2社あってやっているんですが、どうしてもバスの方は鉄道よりさらに田舎の路線をいっぱい抱えていまして、市内路線だけで考えるとこんなに減っていないんですが、中山間地域から来る路線はどうしても人口減少とかいろいろな問題もあるんでしょうが減っている状況です。バスについてはなかなか厳しいところがありまして、幹線の部分は何とか支えて、その先を乗り継ぎして乗り合いタクシーにしてみたり、何とか路線を残すためのいろいろな工夫、それは地域の実情に応じてどういったバスにしていくのかというのはまた引き続き課題となっている状況です。

栗原委員

電車の場合には、福鉄にしても、えち鉄にしても最近はいろいろな工夫がされていて、乗りたくなるような雰囲気づくりがされてきているんですね。バスはそういう点からいくと、そういう努力が何もされていないような気がするんですけど。されているのかもしれないですけど。何か目に見えるかたちでは。

事務局（三谷都市戦略部次長）

運行支援というかたちでの当然行政の支援はあって、中には駐輪場を整備する、バス停を整備するというのに補助制度はあるんですが、いかんせん路線数も多いですし、系統的に全てのバス停がすごく立派な待合室があるとかそういう状況にはなってないです。一応基本的には待合室があったり、そういった点で乗りやすい。バスは特に福井、北陸は雪が降ったりして、寒い中バス停で待つのは大変だとかいうのもありまして、最近学生さんも

雨が降ったらご両親が送迎するようなところもあって、そういう車に慣れてバスの不便なところがなかなか利用減になっているのかなと思います。

下川部会長

理想としては、生活拠点エリアといわれているところのその1カ所のバス停がしっかりとすることですね。

事務局（三谷都市戦略部次長）

拠点バス、乗り継ぎ拠点みたいな感じで。

下川部会長

ですね。それからその周辺部にはオンデマンドが機能するというのは、たぶん行政ができることと民間ができることのいいマッチングなんだろうと思うので、そういうものができそうな文言になってくれればいいんだろうなと思います。

あと、このグラフについてですが、おそらく冊子としてはこういうA4サイズにたぶんなってくるんですかね。見開きになるかもしれませんし。

事務局（山田総合政策室長）

たぶん見開きですね。

下川部会長

ですね。こんな感じにたぶん。

事務局（山田総合政策室長）

それで見えるような感じに。

下川部会長

なりますよね。そうしたときに、公共交通の乗車人員の推移は課題の②に関連するのなかとはいって見てわかるんですが、右側の空き家情報バンク、何でこれを載せているんだろうかという関連がちょっとつかみにくい。おそらくこれというのは地域資源の話をやったんですよね。おそらく課題に対してグラフを出しているんだと思うので、課題とグラフがリンクするような文言の入れ方をするといいんじゃないのかなと思います。

その右側でいうと、湊の中央公園というのは、施策③の「快適な市民の憩いの場をつくる」というものになっていて。施策①のポツ「地域ぐるみの取組みや都市住民との交流活動」が田植え体験になっていると思うので、これはやっぱりつかみにくいんですよね。ということで、田植え体験とか湊の中央公園タイトルはわかるんですが、何かわかりやすいような表現があればいいですね。例えば地域と都市住民との田植え体験とかすると、拾いやすくなったりとか。ちょっとキャッチーな感じでタイトルを付けていくと、文言と写真の連結がうまくいくというか。

事務局（山田総合政策室長）

このあたりはまだちょっと甘いなどちらも思っている。データの方は確かにもう少し課題を定量的に表せると施策につながるようなということで、交通系で何か1つと、地域資源や地域を表すような現状の定量的なデータにしたいと思います。こちらの写真の方は、例えば施策を表すものとする、写真だけではなくて、例えば都市計画マスタープランでいっているような地域拠点のイメージ図みたいなものを付けるとか。

下川部会長

むしろフローの方がわかりやすい場合もありますからね。

事務局（山田総合政策室長）

ちょっとこの辺、1枚目もそうなんですけども、平成29年に出すので、そうするとハピテラスのあたりはもうちゃんと現物があるので、写真にするのか何にするのかは、最終的にどうするかを決めないといけないと思います。

下川部会長

そうですね。

事務局（山田総合政策室長）

ただ、部会や審議会からこんな施策のイメージのものを出したらどうだという提案を頂きたいなとは思っています。例えばこんなイメージの何かを例としてここに付けると施策がわかりやすくなるとか、そういうことで考えていますので、今ここで渚中央公園がいいのか、どんどんアイデアを言っていただければいいかなと思っています。これに全然固執してもらわなくて、基本はいいと思います。

下川部会長

しかも第1部会だけの話じゃなくて。

事務局（山田総合政策室長）

他も一緒です。

下川部会長

他の部会とたぶんこのデザインは統一していかなくちゃいけないんでしょうけど。

事務局（山田総合政策室長）

何か現物の写真をぽっと載せられればその施策がイメージできるかという、必ずしもそうじゃないので、施策を表すイメージみたいなものをこの下の方に表したいと思っていますけど。

下川部会長

よくあるやり方とすれば、もうこの政策に、政策を代表する写真をぽんと載せて。

事務局（山田総合政策室長）

こちらにね。

下川部会長

ええ。もう載せてしまって、それでイメージをつかんでいただく。あ、こういうことをここで語ろうとしているんだなというのがわかるような写真を1枚どんと入れて、あとはもうそれを具体的にどう進めようとしているのかとか、何を言っているのかというのはフローで示すというやり方の方が、たぶん内容の密度も上がってくるし、わかりやすくなるだろうと。

これも他の部会との調整もあるので、今のところは何とも言えませんが、今のところこの書き方だったら、まず迫力はないんですよ（笑）。

事務局（山田総合政策室長）

そうです。下の方にちょっと違和感があるものが入っている。まだ今日の印象はそうか

などと思いますので、いろいろご提案を頂ければそれは全体として調整して直したいと思いますので、よろしくお願いします。

下川部会長

最後にもう1回全体を振り返って皆さんにお伺いしますので、とりあえず政策3に進ませていただきたいと思います。落合さん、よろしくお願いいたします。

事務局（落合総合政策主査）

それでは最後の政策3です。こちらは下川部会長を含め皆さんから頂いたご意見としまして、災害時の市民を守るということが、基本目標2のソフト面だけではなくて、ハード面での社会基盤の強靱化についても、前回の審議会で第1部会が担当という話があったと思いますので、こちらについて政策のタイトルや説明の中に「災害に強い」という言葉を入れさせていただいています。

あともう1点の民間の資金やノウハウを活用するということにつきましては、政策3に関わる担当部局を中心に検討した上で、全庁的に取り組む市の内部事務を示す「総合計画を推進するために」というのが、こちらの巻末に付くわけですが、そちらの方にこれから民間の資金やノウハウの活用というところを反映させていただければと考えています。

資料につきましては、左側のグラフについては下水道事業に関する施策の現状としまして、平成21年度から26年度までの汚水処理人口普及率の推移です。右側は企業局に関する取組みの現状としまして、水道事業給水収益およびその建設改良費の推移と27度以降の見込みを表しています。

次に施策の写真ですが、まず橋梁長寿命化点検については、施策①「強靱な社会基盤を整備する」の1例として挙げさせていただいています。右側のポンプ場の更新につきましては、施策②「汚水適切処理の適切な維持管理」ということで、イメージパースを載せさせていただいています。以上です。

下川部会長

ありがとうございます。これは第六次総合計画の政策としては、3つの政策を実は1つにまとめさせていただいたものなんです。それは皆さん覚えていらっしゃると思います。それぞれ分けられているものを、同じことを言っているなら1つにまとめましょうといって1つさせてもらいました。そこに新たに、近年の自然災害等の話もありますし、その辺をちょっと含み入れて、国土強靱化計画に沿うように、もう少しインフラに体力を持たせて、安全性を高めていく。それが生活の維持になって、暮らしやすさの基盤になっていきますので、その辺をしっかりと取り入れていきましょうということで、このような内容にさせていただいております。

これについてはそういう意味で第六次総合計画をほとんど踏襲しているものであります。が、皆様、いかがでしょうか、これについてご意見などがある方はよろしくお願いいたします。

堀川委員

1点だけ。全国的に長寿命化を図るということでありますので、福井もそれに従ってだと思います。ただ、長寿命化ということで、長寿命化をするために国の基準を守らなくちゃいけないという縛りが出てしまって、坪単価でいうと130万円から140万円ぐらい掛かるような長寿命化の改修費が掛かってしまいます。それぐらいだったら民間活力を活かしてPFIで民間に任せるとすると、長寿命化ではなく取り壊して新しいものを建てても、長寿命化で改築する金額よりも少なくて済むというケースが出てくるんですね。そういっ

たことも視野に入れていただきたいと思います。

ただ、長寿命化は国が進めることなので、国の言うことを聞くと国から補助金が出る、だから補助金をもらえるから長寿命化しようという考えではなくて、そういった時代ではもうないんじゃないかと思いますので、福井市独自の考え方の中にPFIも視野に入れ、どちらが本当に福井市にとってプラスなのかということをお考えいただきたいと、要望をしておきたいと思います。

下川部会長

ありがとうございます。総合計画は大きな器だという話はこれまで何度もさせていただきました。PFIというのは、要は民営化です。協同で事業を行っていったって財政負担軽減させていくという、代表的な開発事業のPFIは、事業なので細かい話になってはしまいうんですが、何とか総合計画としてはそういうことを考えていただけるような余白をきちんと用意しておきたいと思っています。

おそらく堀川委員がおっしゃってくれたことはものすごく大事で、ある意味インフラの更新は一番財政に負担を掛けてしまう部分なので、できるだけ軽減させていくべきだと思います。その意味では政策1から3まで一貫した話でありまして、それをそれぞれに考えていくのか、それともインフラについてはもうそうなんだという方向で一步踏み出すのかというのは、大きなことなのかなと思っています。

私が一番最初に話したときには、PFIということを出しながらお話はさせていただきましたが、これを切り替えるためには各部局が横断的にやっていかないといけないことですし、今の福井市の状況ではひょっとしたら難しいのかなとも思いまして、あんまり言わないようにはしたんですけど、あらためて堀川委員からおっしゃっていただいたので、もう一度ちょっと強調したいと思うんですが。

ただ、これは政策3だけの話ではないということですよね。1も2もそうですし、さっき栗原さんのおっしゃったバスのことについても、おそらく官と民がうまく融合していくことで、負担を軽減するような仕組みづくりなんかもできますし。つまり仕組みの話なんですね。この辺をどう担保していけるかというのは、福井市の今後の課題だろうと思っています。ただ、それを今回の第七次総の中に入れていくのがベストなタイミングかどうかというのも、ちょっと事務局の方でもう一度お考えいただきたいと思います。ありがとうございます。

他にございませんでしょうか。

栗原委員

施策①のボツ4つ目、「社会基盤の整った住宅地を整備し、市内居住の定着を図ります」。これ、一般市民は市内居住がどこを指すのかなと思うんですけど。それからその次のボツ、「住宅困窮者のために、良質な住宅を計画的に整備します」は、市営住宅とかそういうのを指しているんだろうと思うんですけど、今現状では市営住宅というのは横ばいなのか、増えているのか、減っているのか、今後さらに増やしていこうという計画なのか。

というのは、市民用じゃないですけど、例えば国家公務員の住宅はだんだん確かになくしているんだと思うんです。それに代えて民間のところを借り上げたり、あるいは住宅補助を出すとか、そういうやり方もあるかと思うんですけど。これは施策の問題になっていないですけど、これは市としては、住宅困窮者のためにこれからも市営住宅を必要なだけどんどんつくっていこうということを、ここではっきりと打ち出されるのかということを伺いたいです。

施策③ですが、私の場合今住んでいるのは板垣ですが、板垣ですと何年か前にやっと下水道が入りました。ただ、都市ガスはまだ入っておりません。ここに「都市ガスを安全に安定供給します」と書いてありますけれども、これは市のお考えではどこまで都市ガスを整備される予定なのか。これは100%を目指しておられるのでしょうか。

事務局（増永道路課長）

今日は建設部次長の代わりに道路課長として出席しました。住宅供給に関しては全て情報を持っていないんですが、市営住宅に関しては今建て替えをしています。基本的に聞いている限りのお答えしかできませんが、新しく建て替えて増やしている方向ではないと認識しています。

下川部会長

そうですね。これは政策1と連動する話なんですけど、空き家なんかもどんどん増えていきますので、そういったところとうまく調整するという意味も当然含まれていると思います。ただ、強靱な社会基盤となるとやっぱり住宅をどう考えていくかというのは大きい話です。そこら辺を担保している話かなと思います。

ただ、この「市内居住」っておかしいですよね。これは間違いではないんですか、大丈夫ですかね。①の4番目「社会基盤の整った住宅地を整備し、市内居住の定着を図ります」。総合計画自体が市内の話ですからね。

事務局（山田総合政策室長）

そうですね。ここ自体は区画整理事業全般の話を少し書いていると思うんです。

下川部会長

なるほど、だから市内か。

事務局（山田総合政策室長）

「市内居住」って、ちょっと言葉がおかしいですね。

下川部会長

何と云えばいいんですかね。

事務局（山田総合政策室長）

住宅地とも限らないので。

下川部会長

そうですね、住宅地とは。これは立地適正化とも関連する話なんですか。

事務局（山田総合政策室長）

そうですね。立地適正化。ちょっとこの辺はもう少しこちらで。区画整理事業の話のところだと思いますので、書きぶりを少し整理させていただきます。

下川部会長

栗原さん、ありがとうございます。私も見落としていました。

事務局（坂口企業局次長）

都市ガスの質問がございましたのでお答えします。都市ガスの方は、だいたい市内の中心部を中心としまして、31平方キロメートルが供給区域と定められています。ただ、最近都市ガスについて、住宅の場合はオール電化という手法が非常に普及しておりまして。

これは郊外も含めてですが。そういう意味では、供給区域の中でも利用率は今現在 50% を割っているという状況になっています。経営的にもやや厳しくなっている。

板垣のあたりも実は供給区域に入っているんですけども、導管を十分敷設できていない状況で、ご利用いただいている方がまだ少ない状況だと思います。そういう意味では導管をこれから延伸していくという場合に、どうしても費用を回収できる見込み、需要がある程度見込めるという中でそういう事業を行っていく必要があるということで、今やっているところです。

栗原委員

単純な質問ですけど、都市ガスとプロパンガスとどちらがいいんですか。

事務局（坂口企業局次長）

いいというか。

栗原委員

基盤整備の方からいくと、今導管を敷設して何とかというのでコストが掛かって、自治体もその負担が大変だと思うんですけど、住民にとってはどちらがメリットが大きいのか。都市ガスはプロパンガスより安くて火力が強いんだというのか、都市ガスよりもプロパンガスの方が、火力は知りませんが、安いなら安い方が私らはいいですし。地震なんかのときは都市ガスよりもプロパンガスの方が強いかなという気もしないではないんですけど。

事務局（坂口企業局次長）

都市ガスの場合はガス工場の方から導管網を通じて送ります。プロパンガスの場合はボンベとかそういったものを宅地内に置いていただいて、そこから使っていただくというかたちです。そういう意味で宅地内を有効に使えるというメリットもあります。これは一概には言えないんですけども、プロパンガスは価格がまったく自由ですので、都市ガスの方が一般的には少し安めかなと私どもは思っています。

栗原委員

都市ガスの方が。

事務局（坂口企業局次長）

都市ガスの方がです。同じ熱量で比較した場合少し安いだろうと思います。

栗原委員

私らはプロパンガスで一向に不便は感じてないんですけど。私はちょっとブータンのことをやっているんですけど、例えばブータンなんかは電話線を敷設するよりも、今はやりの携帯電話とかそういうのが普及していて、そういうインフラ整備はあまりやっていないというか。だからそういう意味で、財政も厳しい折どういう方向で行かれるのか。どんどん導管を敷設してガスを送るのか、プロパンガスの方がコストが高ければ行政的に負担を軽減するとか、負担してもしなくてもいいですけど、プロパンガスでいくところはもうプロパンガスでいくとか。これを読むと、全部 100% やっていくように読めますので。

下川部会長

この辺の話というのは、安ければいいというものでもないなと実は僕は思っております。市民が選択できればいいだろうとは思っています。電気が普及しているというのは、エコロジーないいイメージがあるし、環境にもいいですし、そういうイメージが先行しているというものもあるでしょう。民間の方が相当努力をしてサービスなども充実していま

すし、見える化という最新の技術なんかとも連携したり。あと、災害時に対応する方法なんかも考えているんですが、行政ではなかなかできないようなことを民間で行えるというのは、大きなところかなと思っています。

福井の都市ガスは、僕は高いなと思ってはいます。安ければいいというもんじゃなく、付加価値はどこにあるのかと考えたときに、市民がそれを選択できるような状況になっていけばよいと思いますし、そういう意味でのインフラ整備というのはすごく大事なと思うんです。

先ほどの話をぶり返すんですが、変な言い方ですが、民間のビジネスの力というのはやっぱりなかなかすごいものがありまして、そういった方々とうまくタグを組みながら、市民に安定供給をしながらどういうサービスが提供できるかというような視点に立って、このインフラを考えいかなないといけないんじゃないか。福井は幸福度も高いし生活しやすいところであるとはいわれるものの、そういったところがうまく満足度が変わってきますので、そういったところを社会基盤の方でしっかりこれからつくり出せるかどうかというのがポイントだろうと思います。

一も二もなく安全・安心というのがこの社会基盤、特にこの政策3の部分では重要になってきます。それをきちんと担保できるというのがベースですし、それは第六次の総合計画で十分でしょう。そこにプラスアルファ、今後そういった市民がきちんと選択できるような新しい視点でのサービスが提供できるかどうかというのを、民間と一緒に考えていけるような、そういう事業をぜひその部分では展開していただくとありがたいなと思います。

堀川委員

1点、いいですか。

下川部会長

お願いします。

堀川委員

ガス事業者も、プロパンガスの事業者との折り合いというのがすごく大事なところなんだろうと思うんです。お互いに生きていかなないといけないといえますか、都市ガスがどんどん普及してしまうと、民間のガス事業を圧迫するということもあるので、そうそう力を入れることもできないというのが現状としてあるんでしょう？

事務局（坂口企業局次長）

プロパンガスの事業者の方と、ガスの性質は違いますが同じガス体エネルギーということで、そういうガス体エネルギーの普及促進という意味で、例えばCMとかそういう宣伝活動などを一緒にやったりとか、防災の協定を結んだりとか、そういうやりとりとか連携は今もやっておりますので、また続けていきたいとは思っています。

堀川委員

そこで民間と闘う場合に、決定的に不利な面が1点あるんです。今郊外型の店舗が増えています。まちなかに集約されていた店舗がどんどん郊外に行ってしまうので、そういったところで都市ガスのあるところへ行くと、まずオール電化でない限りガスを引くわけです。冬場はエアコンだけでは寒いので、そういう店舗は灯油のストーブを使います。

でもよくよく考えてみると、ガスが来ているんだからガスの暖房器具を使えば、その方が押してすぐに暖くなるし、臭いもないし、安全性も決して低くはないので、そっちを

選択しようと思った場合、ここが大事なんですけど、設備投資をしなくちゃいけないです。そのときに配管を延長するだけで10万円、20万円というお金が掛かってしまいます。都市ガスの場合。民間業者は無料でやってくれます。

だからその無料でやってくれることを視野に入れると、やっぱり郊外型のお店なんかは、これから住宅もそうになっていくんだと思いますけど、都市ガスをなかなか選びにくいというところもあって、そこの業者さんの手間の部分を何とか都市ガスの事業者として面倒を見られないのかなと思うんです。そうすると同じ土俵ですから、同じ土俵の中で闘えるのかなと思うので、そういったお考えはないんですか。

事務局（坂口企業局次長）

プロパンガスさんのそういうかたちで最初の初期費用については無料でやられて、実際毎月使っていただくガス料金に転嫁されるような手法もあるとは思いますが。私どもの場合公営ということで、料金や負担金ということが条例の中で決まっていますので、分けて頂いている。これからの課題にはなるんですけども、電力やガスのエネルギーが自由化という時代を迎えることになります。電力はもう来年からでしたか。ガスの場合は再来年を予定されています。そういう時代に向けて、先ほど部会長がおっしゃったように満足度を高めるようないろいろな民間のビジネスなども参考にしながら、連携していく必要もあろうかと思っています。

下川部会長

ありがとうございました。

事務局（山田総合政策室長）

すみません、このあたり、上の水道の書きぶりと下のガスの書きぶりがまったく同じなので。

下川部会長

そうですね。

事務局（山田総合政策室長）

ガスの方はもう少し民間との関係もありますので。

下川部会長

独立させるということですか。

事務局（山田総合政策室長）

同じような書きぶりじゃなく、上の水道は「おいしい水道水を安全に安定供給します」で終わっていますよね。そこと「都市ガスを安全に安定供給します」では、範囲の話も、同じように市が全部ガスもやるのかというような誤解も生みますので、書きぶりをまたこちらで工夫させていただきます。

下川部会長

よろしく願いいたします。他にございませんでしょうか。気になることは何でもおっしゃってください。

気になるといえば、ちょっと外れるかもしれませんが、ポンプ場の更新とここに絵が出ているんですけど、これはどこのポンプ場なんですか。下水ですか。地区はどこでしょうか。

事務局（高間下水道部次長）

これは佐佳枝ポンプ場です。だからもう終わっています。

下川部会長

これは昔のやつですか。

事務局（高間下水道部次長）

昔のやつです。

下川部会長

びっくりしました。

事務局（高間下水道部次長）

イメージとしてはこんなものを出しただけであって、バランス的にいうとどうかなというのはあるんです。

下川部会長

これからではないですよ。

事務局（高間下水道部次長）

これからではないです。

下川部会長

ああ、よかったです。昔ですね。僕も地形を見てそうじゃないかなと今一瞬思っ、確認させていただいたんですが、それにしても橋が短いんですよね。

堀川委員

短いですね。

下川部会長

もうちょっとこっちですね。映っていないんですね。すみません、ありがとうございます。

どうでしょう、他に。高畠さん、何か気になることとかありませんか。なければパス。2～3回使えますけど。櫻井さん、いかがでしょうか。

櫻井委員

「住宅困窮者」というのはどういう方を指すのかなと思ったんですけど。

事務局（増永道路課長）

市営住宅をイメージしていると思うので、基本的には年収に応じたその支援ということで、住宅困窮者という言葉がいいかというところはあるかもしれません。

下川部会長

言い方を何か、ちょっときついかもしれないですね。他の言い方は何があるんですか。

事務局（山田総合政策室長）

前回にもそう書いてあるんですね。前回に住宅困窮者と書いてあるんですけど、ちょっと。

下川部会長

ちょっとね。

事務局（山田総合政策室長）

また言葉は少し考えます。

下川部会長

誰々のためにというのは、いないかもしれないですね。

事務局（山田総合政策室長）

そうですね。

下川部会長

おそらく「良質な住宅を計画的に整備します」というのは、この部分は中心市街地のことは話してないですよ。

事務局（山田総合政策室長）

中心市街地だけではない。市営住宅のことなので。

下川部会長

そうですか。

事務局（山田総合政策室長）

困窮者のために。まあ、ちょっと。

下川部会長

ありがとうございます。他にございますでしょうか。

堀川委員

関連ですみません。「良質な住宅を計画的に整備します」ということは、老朽化した市営住宅はこれからも整備していきますよということなんですか。

事務局（増永道路課長）

すみません、そういうふうに認識はしているんですけど。

事務局（山田総合政策室長）

更新している。今やっていますから。

事務局（増永道路課長）

更新しています。今の時代に合わせて更新しています。

堀川委員

耐震とかになっても耐震するし、老朽化が激しくて解体しなくちゃいけない場合は新しいものを建てるということにつながるんですか。

事務局（増永道路課長）

そうです。今建て替えもしていますから。

堀川委員

そういうことですね。それでしたら、ものにもよりますが、民間の方々が経営されているアパートとかマンションを借り上げて、市営住宅にするということも視野に入れてい

ただきたいと思います。

どんどん今空きマンションが増えていますので、そういった持ち主の方々が固定資産税に非常に苦しめられていて、収入を上回る固定資産税を払わなくちゃいけない。一等地にあるマンションであっても入居者がなかなか出てこない、それから家賃を下げてでも出てこない、改装しても出てこないといった悪循環が、これからますます増えてくると思いますので、そういった救済という意味でも、ちゃんとした運営をしている方々のマンションを借り上げるということも、1つの方策だと思います。

決してそれは投資が拡大していることにはならないです。逆にその部分で投資以内の金額で賄えると思いますし、それが税収にもつながってくると思いますので、それを第七次の中にご検討いただけたらと思います。

下川部会長

なるほど。そういう意味で全部が全部というわけにはいかないですね、これからの時代は。場所なんだろうとは思いますが。ただ、それも入れるとすればどこになるんですかね。やっぱりこの施策①「強靱な社会基盤を整備する」という話の中なんですかね。

増永さん、すみません、今の話は持ち帰っていただいていいですか。

事務局（増永道路課長）

検討することです。

下川部会長

そうですね。

事務局（増永道路課長）

それがいいのか、まったく別のところ、中心市街地のあたりというところでもあると思う。その辺を検討させていただいて。対応できるのかどうかを含めてですけど。

下川部会長

そうですね。おそらく器は大きい方が後から入れやすくなると思いますので、大きい方がいいのかなと思います。ありがとうございます。

それでは皆さん、今1から3まで見ていくことができました。これから、落合さん、時間の方はいかがでしょう。今1時間40分たっているんですが、どうでしょう、もう一度1から3まで皆さんにご意見を集めたいと思いますが。時間的に大丈夫ですか。

事務局（落合総合政策室主査）

はい、大丈夫です。

下川部会長

ありがとうございます。それでは政策1から3まで、櫻井さん、2の途中から来られていますので、もしよろしかったら1も見ていただいて、これを言っておきたい、こうした方がいんじゃないのか等指摘しておきたいというものがありましたら、よろしく願いいたします。

事務局（落合総合政策室主査）

政策1、施策②の4つ目のポツですが、こちらは専門的な言葉がちょっと多くなっているので、部会長の方からそちらの表す意味合いや、具体的にイメージができるようなご説明を少しいただけたらと思います。

下川部会長

わかりました。まずこの話というのは、これまで何回かしてきたわけなんです、簡単に言えば都市をコンパクトにしていくための手法だと考えてください。当然都市をコンパクトにしていくという話では、福井市全般に関わる話で、中心市街地の話だけではないんですが、この政策1は中心市街地に関する政策なので、中心市街地に特化した話になります。

今、中心市街地というのは福井市では105ヘクタールあるわけですが、居住地域なんかを含むとっとと大きくなるんですが、意外と空き家も多いし、空き店舗が埋まってきているというものの、実は調査の仕方によって実態はもう空き店舗に等しいような店舗もたくさん今福井ではあります。また空地や青空駐車場なんかも、整備をされるというよりもむしろ乱設されているような状況であって、まちの魅力とか使いやすさとかそういった面で見ても、決してよい状況とはいえない状況にあります。

人口が減少していく中で、これから高齢者も増えていく中で、まちなかで生活をしていきたいと思う人を増やしていかなければいけないと思います。それはお年寄りだけじゃなく、若い人なんかもまちなかで住みたいと思うようになってくれて、できるだけ生活をしていくゾーンをコンパクトにして、先ほど堀川さんのおっしゃったガスの問題なんかもまさしくそうですね、できるだけこれからインフラに掛かる経費をコンパクトに収めていきたいというのが、大きな課題だと考えています。

その中で中心市街地を見たときに、まだまだ有効に使える場所もあるのにうまく使えていない状況もあります。また、中心市街地に生活しようとしても、まだまだ周辺部に勝てないような、つまりまだ住める場所ではないでしょうと思っている人が実際に多いようです。そうした中で、中心市街地に人に住んでもらうためには、住むためにもろもろのものが需要だと思います。実はそろっているように見えるんですが、まだまだ足りないだろうなと思います。

話はちょっとややこしくなりますけれども、例えば中心市街地の福井城址周辺というのは意外と文化的なものが集まっておりまして、行政の施設なんかもそろっているわけなんです、せっかく文化的な色合いがあるにもかかわらず周辺に美術館なんか散ってしまっている。その耐用年数をこれから見ていくとそんなに長くは維持できないはずだから、美術館を持ってくるだけでその文化度はさらに上がって、こういうところに生活してみたいと思う人が増えてくるだろうというような考え方もできます。

あと、高齢者をサポートするようなデイサービスや子どもを預かってくれるような託児サービス、確かにアオッサの中にはあるのはあるんですけども、そういうものも適切な配置なんだろうとも思います。本当にその住宅街をこれから形成していくのであれば、その近くにあった方がいいでしょうし、そういったもろもろの再配置というのを今後検討していかなければいけないと思います。

コンパクトシティに絡めて国の方から、都市の高度化という難しい言い方をしますが、立地適正化基本計画といって、もう一度まちなかの、まちなかだけではないんですが、施設をうまく再配置しなさい、コンパクトシティに対応できるようなまちにしていきなさいという方針もあります。それにうまく乗っかってこの中心市街地の土地の有効な活用、低・未利用地の活用とか空き施設の有効な活用というのを今後やっていくのは、この中心市街地の命題だろうなと思っています。

みんな新幹線の方に目は行きがちなんです、僕の中ではこっちの立地適正化の方がよほど大事だと思っています。これから人がその中で、中心市街地で生活していくために必

要なものを、行政の方々もそうですし、ここにおられる委員の方々皆さんお一人おひとりが考えていただいて、行政なんかと話をしていっていただければいいなと思うんですが。

視点はもうはっきりしているんですね。住みやすくするにはどんなサービスがその居住する場所の近くにあるといいか、ただこの1点です。大きな話になって申し訳ないんですが、県都デザイン戦略の視点でいえば、城址周辺というのは文化圏なので、その文化的なものをどういかにそろえられるかというところが大きなポイントになってくるだろうと思っています。

そこら辺をまったく検討しないで、今後の中心市街地を考えることはちょっとできないだろうと思われるので、このポツの4番目にこういう文言を私がわがままを言って入れさせていただいております。裏を返せば、これを入れておけば考える余地がある。これから絶対出てくるので、その準備だと思って置いていただくと非常にありがたいと思います。

ただ、行政の方々にしてみれば、当然これを書く事業評価で、数字で表さなくてはいけいなので大変だろうと思うんです。これも事務局の方でご検討いただきたいと思うんですが、総合計画は全て事業評価で表さないといけないのかというと、僕はそうは思っていないくて、むしろこの5年間というスケジュールの中で数値を上げていかなくちゃいけないものもあるんですが、特にこの土地の高度利用と立地適正化については、5年でどうなる話ではないと思うんですね。そういったものについては、事業評価そのものも1回事務局の方でご検討していただいて、これは従来の評価の仕方でいく、新しい評価軸というものを考えるというような、そういうフレキシブルな発想で評価というものを考えていただくとありがたいなと思っています。

ちょっと話が大きくなりすぎて申し訳ないですが。おそらく第1部会から第4部会までみんなそうなんですけれども、これを書いてしまったが故に、評価というものがあるから行政の方々はみんな大変な目に遭わないといけなくなってくる、また成果を挙げないといけいから書きたくないとか書けいとか、そういったものも出てくるんだろうと思います。まちを本当にいい方向に向けていく上で、その評価がもし足かせになっているのであれば、評価そのもののやり方を今まに見直すべきなんじゃないのか、そんなふうにも思っています。これについてはあれなんです、持ち帰ってちょっと皆さんでご相談していただくとありがたいなと思います。

落合さん、こんな感じなんですけど。いかがでしょうか。

事務局（落合総合政策主査）

ありがとうございます。

下川部会長

これについても補足で皆さんの方から、今回この総合計画の第1部会という皆さんに本当に思いの詰まったものなので、併せて事務局にお願いしておきたいことがあるんだしたら、どうぞおっしゃってください。

堀川委員

政策2です。第六次のときから「にぎわいのある中心市街地をつくる」という項目の中で、公共交通の利便性向上、それから誰もが使いやすい公共交通ネットワークを構築するということで、公共交通幹線軸の強化や乗り継ぎの利便性を高めるということが書いてある。それがそのまま継承されていると思います。ただ、確かにその公共交通の利便性を高める、乗り継ぎやすさを高めるということで、目玉であった西口広場へのひげ線の延伸

ですが、この延伸によって利便性も高くなって、そこに乗られる方も1日当たり158人増えるんだという説明を受けていました。

にもかかわらず、現状としては1日当たりひげ線に入ってくる便数は12便減るんです。なおかつ、その目玉の中に入っていた一番のラッシュ時8時台が、2便しかなかったのを6便にしますよという提案をしていたんですけれども、それすらできないということです。ですからこういった施策を挙げて施策どおりにやったんですけれども、それが裏目に出ているといいますか、乗れるべき人が乗れなくなっていく。6本入るということは6便必要だから入っていたにもかかわらず、それが1時間当たり4便、それが6時間にわたって2便ずつ減っていくといったようなことになっているんですね。

ですから、総合計画の中に書いてあって、そのとおり進んでいるならともかく、利便性が低下しているところに陥っているにもかかわらず、それを継承して第七次でそのまま、施策②に「生活圏にあった交通システムを構築します」とか、「乗り継ぎや利用しやすいダイヤ編成等、まちなかと地域を結節する交通を円滑にします」と書いてありますけれども、ここにはいったん利便性が低下したものに対しての反省があって、そこからもう1回盛り返して利便性を高めるよとしないと、順調に第六次で取り組んだことを第七次にも反映しましたということで終わってしまうと思うんですけれども。いかがでしょうか。

下川部会長

これについてはスタンスですよ。第六次から第七次に向かっていくとき、第六次をそのまま引きずって行うのか、それとも現状の課題を新たに検証しながら、本当の効率性を図っていくというんですかね。特にこの交通結節点の強化というのは、例えば中山間地域の人が中心部を訪れるのはさまざまな理由があると思います。

特に僕が心配しているのは、これから高齢者が増えてきて、福井のお年寄り元気なので車をばんばん乗り回すでしょうけども、それでも公共交通を使ってほしいんだというのは私たちの計画なので、公共交通を使うということを前提に考えると、例えばお年寄りが大きな病院にかかるために電車に乗ってくるというときに、来る時間と帰る時間がものすごく限られてしまうんです。ただ病院に行くだけなのに、病院に行ってもしかも待たされますしね、病院に行くだけなのに丸1日かかってしまうというような状況が今もあるそうです。

そういったものをどう解消していくかという、本当に実態に応じたダイヤ編成や連結の仕方ということがたぶん、今堀川さんのおっしゃったような実態を持ったこの交通戦略というんですかね、システムの構築という、そういったものが必要なんじゃないのかという話だったんです。第六次総そのままでいくのか、今後そういったことも検討しながら考えていくのかというところなんですけど、この辺でもし今こう考えているんだということがあるのであれば、ご紹介していただければありがたいなと思います。

第八次総になったときに、それはもちろんこうしていきますという話があるんだったら、それも併せてお願いしたいなと思います。

事務局（山田総合政策室長）

全般的な言い方としては、現状とか課題のところがありますね、その辺で今第六次やってきたことで問題のあることとかを書くというようなかたちで、それを踏まえて施策をどうするかという流れにあります。ちょっと個別のところはいろいろチェックし、堀川委員がおっしゃるような話について書けるか書けないかはまた考えますけれども、基本的には現状、課題というのは単純に現状、課題を見ているのではなくて第六次でやってきたことがどうなったのかというのをそこで書いて、それを踏まえた施策というかたちだろうと思

っています。

下川部会長

1回そこでお尻を切りますもんね。事業評価というのが出てきますから。

事務局（山田総合政策室長）

だからその現状、課題もそういうかたちで見た上での施策です。

下川部会長

難しいと思いますね。

事務局（山田総合政策室長）

そういうふうにもう1回見てやりたいとは思っています。

下川部会長

こういうときにやっぱり民間の活力をどう使えるか。

堀川委員

今回の場合は、物理的に無理なことをやれると言ってしまったので、結果的に、よくよく調べてみたら無理でしたということですね。ですからそこには大きな問題が残ったと思います。

下川部会長

これは総合計画の中で、先ほどから来何度もお話しているんですが、各論というよりもむしろ大きな話を盛り込ませていただいて、今回委員会で出ていることが議事録に残りますので、その中であらためてそういったものも精査していただきながら、事業展開に持っていっていただきたいなと思います。

事務局（山田総合政策室長）

個別の点を1点だけ。まだ結論は出ていないと思いますので、その辺は十分そういうものを求めているというのが市のスタンスですから、その辺はご理解いただきたいと思います。

下川部会長

ありがとうございます。他にございませんでしょうか。

櫻井さん、いかがですか。特に最近どうでしょう、越廼の方は順調でしょうか。

櫻井委員

そうですね、この交通システムというのは、越廼も当然高齢者の方が多くて、そろそろ車を運転できないという方も増えてきて、やっぱり病院なり買い物なりも本当にバス頼みになるんですけど。そのバスも1時間に1本あるかないかの感じになって、そこはやっぱり不便そうだなというのは思うし、通っている高校生とかを見ても帰られる時間とかが限られてくるから、単純にもっと本数があればいいのには思うんです。

ただ、たまにバスを見ているともう、本数があればいいのになと言っているわりには、空気を乗せて走っているような状態のものもよく見るので、どうするのが公共交通にとって理想なのかというのは、僕自身も迷っているというか、何が正解なのかちょっとわからないというのが現状です。

下川部会長

ニワトリが先か卵が先かという話に必ずなってしまうんですが、交通インフラを整えておけば人が乗るのか、それともそもそも乗る人がいればその交通インフラが整うのか、みたいな話ですね。交通インフラは整うんだけど空気を乗せて走っているというのは、いったいどういうことなんだということですよんね。

櫻井委員

ええ。

下川部会長

おそらくそれはもうバスに乗ることが不便だということを知っているからこそ、バスを利用しないんじゃないのかな。やっぱりニーズの問題なんだろうと思うんですね。これは総合計画というか行政のスタンスとしては、お金を使ってハード整備をする、そしてその生活を維持するための基礎をつくる、基盤をつくるということはもう宿命なんですよんね。

一方で、それはそのハードからソフトを考えていくという立場なんですね。一方、でも本当の実態というのはソフト、ニーズがそこにあるからこそハードをつくるんだという立場になっていかないといけない。アオッサを見てよくわかるでしょう。ニーズがないのに建物をつくるから、ああいうことになるんです。

櫻井委員

ああ、アオッサね。

下川部会長

そういうことですわ。ニーズがあれば埋まるんです。つまり、ニーズをどうつくるかというのが行政の課題なのかどうなのかという議論はしていかなくちやいけないですよんね。地域おこし協力隊の櫻井さんは、そのニーズをつくる人だと思っています。だから櫻井さんがニーズをつくれれば、バスを利用する人も増えるんだろうと思うんですね。だからこれからは民と官がしっかりと協働してまちづくりを進めていかなくちやいけないんですが、官の役割は生活を維持していくための基盤づくりなのは間違いないです。これを怠ったらもうやばいですよんね。

一方、民の役割というのはニーズを喚起する、それが仕事だろうと思います。堀川さんのやっているのは、ずっとそんなことをやっていますもんね、何だかんだ言いながら。

堀川委員

何だかんだ言いながら（笑）。

バスについては、今福井市は頑張っている。ただ、受益者負担もあって、大ざっぱに言うと1便当たり3人乗ってくれば、その3人分の人たちは200円でもお金を払って。あとの運営に掛かるお金は全部福井市の方で持つから、乗るのは1便3人でいいから乗ってねと、それでちゃんと運営できるだけの補助金は出そうとしているんだけど、その3人が乗ってもらえない。

だから、3人乗れないバスはつくらなくてもいいんじゃないかと僕は思っています。その辺の受益者負担側の、バス路線が欲しいというなら欲しいだけでの人が乗ってねと、その乗ってもらう人数も10人とか20人と言っているんじゃないんだから、3人だから頑張ってよという、そういう感じで今運営をしている路線は他にあります。

栗原委員

卵が先かニワトリが先か、その議論はいろいろなところであるんですけど。私は福井市の都市計画はまったく勉強してないのでわからないんですけど、単純な思いですけど、できることならば例えば福井市の駅前から放射線状に交通網は将来10年、20年、30年かけてこういうふうに整備していきますと、ばんと打ち出して、そしてそれに沿って住宅を建ててもらふなり、店舗を出してもらふなり。そうすれば将来バス路線がここに来る、だからここに家を建てようかとなる。その路線に沿って家を建ててくれば、将来の利用者も増えてくるんじゃないか。

これは単純な思いですけど、最初にやっぱり交通政策をばんと打ち出して放射線状に延ばし、クモの巣のように横のこれも走らせます。バス・アンド・ライドの駐車場をここへ整備します。それを打ち出すと、土地の価格に反映するのかもしれないですけど。その辺が微妙なところなんだろうけど、そのあたりが都市計画に反映されているのかどうか私は知らないんですけど、それがなくて何もなかったらいろいろなところへ家を建てて、そこに下水とかそんなインフラの整備までしていかなければならないとなる。そんなことはやっていないと思いますけど、交通政策についてはもう少しポリシーを持って10年、20年、30年計画でこういうふうに整備していきますみたいな、そんなものが必要なんじゃないかと思います。これからの高齢者社会に向けては。

時間が来てあれですけど、昨日もちょっと商店街の人としゃべっていて、コンパクトシティというのは居住人口を増やすという考え方でいいですか。

下川部会長

中心部にできるだけ。

栗原委員

ですね。それはもちろんいいんですが、その人としゃべっていると、今はもう、車を持っている人は郊外のショッピングセンターに行って買い物をするけど、高齢者の方や車に乗れない方はやっぱり公共交通機関を使って駅前あたりに買い物に来ると言うんですね。買い物に来るけれども、なかなか買い物ができるような店がないと言うんですね、最近。昔はあったんでしょうけど。だから駅前に日常生活の必要なものが買えるような機能も整備していく必要がある。整備するって行政が整備するわけじゃないでしょうけど。

それと、駅前にスーパーマーケットが1つありますね、マルマンでしたか。あそこは今工事が始まると聞いているんですけど、あれもあの辺に居住している人にとっては大変貴重な店だと思うんですが、あれがなくなったらどうなるのかなと、ちょっと私は人ごとながら心配しているんですけど。ちょっと余計なことを申し上げました。これで終わります。

下川部会長

ありがとうございました。町井さん、最後に全体を通して。

町井副部会長

話をお聞きしていると、やっぱり一番の原因というのは、部会長もおっしゃったように人がいないということが全てに引っ掛かる感じですね。もう1つ、私はこの政策3の言葉ですけど、施策①のポツの5番「住宅困窮者のために」というのは、市営住宅に入っている人を対象にした言葉遣いか、それともまったく個々の生活でも困った者か、いわゆる用語の差別になるんじゃないかと。ちょっとそれが気になったものですから。その辺をチェックした方がいいんじゃないかと。今現在市営住宅に入っている人は、私らは全部

困窮者かと思うかもしれない。そんなことをちょっと考えていたから、もうちょっとこの辺の言葉を緩やかにするとどうかなと、そういう感じがしました。

下川部会長

ありがとうございます。今お話にあったことはすごく大事なことで、1回ご検討いただけますようお願いします。

大森さんは。

大森委員

いや、もういいです。

下川部会長

高島さん、いかがですか、最後に言っておきたいこと。パスは3回まであるので。

高島委員

ないです。

下川部会長

それでは、今この会議中にいろいろなお話が出てきたと思います。これをあらためて皆さんにご確認をさせていただく日があるかどうかというのは、ちょっと実は微妙なタイミングなんです。1月に入りますと調整会議というものがあまして、そこで最終的に各部会間の審議があります。調整会議でよかったでしたっけ。

事務局（山田総合政策室長）

調整会議です。

下川部会長

調整会議ですね。ちょっと調整なんかも入りまして、最終段階に入っていくわけなんです。部会としてはこれで、皆さんからご意見を賜りまして閉じさせていただきたいと思っています。今日頂いたことというのは事務局の方に1回ブラッシュアップをさせていただいて、町井さんと私の方に一任をさせていただきたいと思っています。よろしければそうさせていただきますのもよろしいですか。

大森委員

結構でございます。

下川部会長

ありがとうございます。ではそのように最終的にきちんと、皆さんの言葉の間に見える感覚的な部分なんかも私の方でしっかりとチェックをさせていただきたいと思いますので、町井さんにもしっかりとサポートをしていただきたいと思いますので、皆さん、よろしくお願いいたします。

町井副部会長

責任重大になるな。

下川部会長

よろしくお願いいたします。

3. まとめ

それでは皆さん、第1部会の部会は3回ありましたが、皆さんのお力をお借りして何とかここまでたどり着くことができました。どうもありがとうございました。まだ皆さんのお世話にはなるんですが、これで部会としての会議は閉じさせていただきたいと思います。ありがとうございました。

では事務局に戻します。

4. 閉会

事務局（山田総合政策室長）

一言私の方から。今日も貴重なご意見、重要な視点を頂きまして、事務局として訂正させていただくところは訂正します。それをまた部会長と副部会長にご相談しますので、よろしくをお願いします。それと、1月に入ってそういう部会ごとで最終的な案が出てきたところの調整を、部会長を中心にさせていただきたいと思います。

次に審議会で皆さんにまたお諮りをする話としては、各部会でまとめた話と当然総合計画全体の話ですが、その辺をどういうふうにするのか。前回の審議会でも都市像とか、目標とか、基本は第六次を引き継ぐのはいいんですが、第七次をどう表していくか、まとめ方、出だしのところ、その辺を事務局としても今検討していますので、そのあたりは調整会議でもまたご相談させていただいた上で、審議会でそういう全体的なところもご審議をいただきたいと考えていますので、よろしくお願いします。

下川部会長

審議会は1月ですか。

事務局（山田総合政策室長）

うちの方もその辺の話は少し重たいかなと思っていますので、慎重に今検討していますので、日程等はまたお知らせをしたいと思っています。

下川部会長

そうですね。皆さんにもご出席していただくことになりますので、事前にまた資料を皆さんにお送りいただければありがたいです。

事務局（山田総合政策室長）

前回は当日で申し訳なかったと思いますので、それは十分審議会の前に資料をお渡しして、読んでもらってから審議会で諮りたいと思いますので、よろしくお願いします。どうもありがとうございました。

（以 上）

第七次福井市総合計画審議会 第3回専門部会 出席者名簿

第1部会 社会基盤分野

※委員50音順、敬称略

		氏 名	備 考	出欠
福井市総合計画審議会	部会長	下川 勇	福井工業大学 准教授	○
	副部会長	町井 廣	福井市自治会連合会 会長	○
	委員	大森 紀之	集落支援員	○
	委員	栗原 哲朗	公募委員	○
	委員	櫻井 英佑	地域おこし協力隊	○
	委員	高畠 美空	公募委員	○
	委員	堀川 秀樹	福井市議会	○
市	総合計画策定会議	三谷 清	都市戦略部次長	○
		倉 美幸	商工労働部次長	○
		渡辺 知幸	農林水産部次長	○
		竹内 康則	建設部次長(代理:増永道路課長)	○
		高間 光夫	下水道部次長	○
		坂口 定之	企業局次長	○
		山田 幾雄	総合政策室長	○
	事務局	山本 誠一	総合政策室副課長	○
		塩谷 靖喜	総合政策室主任	○
		山口 秀明	総合政策室主幹	○
		落合 大輔	総合政策室主査	○
		松田 佳恵	総合政策室主査	○